



ひのみな 支えあいネットワークだより

脱コロナ禍に向けて

委員長・日野南連合自治会長
上田 昭則



新型コロナとの闘いも足掛け4年になりました。今まで私たちが経験したことがないような世界的な流行の下で、私たちはこの間、感染拡大防止のため三つの密を避けるべく、人と人との接触を断たれ、行動の自由を奪われてきました。

この先のコロナ対応は少し緩やかになり、私たちの生活も変化が生じると思われます。しかし、あまり楽観は許されない状況の中で、もう少し感染拡大防止と地域活動の活性化という二つの相反する目的の調和点を求め、従来の発想を超えた考え方や行動が求められることとなります。

このような背景の下、去る2022年12月10日、日野南地域支えあいネットワーク連絡会の定例メンバーに加え、地域の若手世代を代表するオピニオンリーダーの方々にお集まりいただき、「協働による地域づくり意見交換会」を開催しました。当面の課題である二つのテーマ「防災・在宅避難後の助け合い」「若い世代と協働で活動する地域とするために」について、自由な発想から意見を述べていただきました。

本号では、この場で発言された内容について、その概要をお知らせすることといたします。

「協働による地域づくり意見交換会」開催の主旨

テーマA
防災・在宅避難後の助け合い

テーマB
若い世代と協働で活動する地域とするために

大地震発生！！

地域では様々な活動が行われています

助け合いグループによる安否確認

「自治会活動」「防災訓練」「夏まつり」「スポーツフェスタ」
「子ども秋まつり」「坂のまちのハロウィン」「お楽しみ工房」
「アート展」「地域合同お楽しみ会」など

倒壊などで自宅生活できない方

自宅生活が可能な方

現在、地域活動の担い手は70～80歳代が中心ですが、若い世代と一緒の活動や、新しい活動も始まっています！

地域防災拠点へ

在宅避難へ
(在宅被災生活)

「若い世代は古い世代に何を望んでいるのか」
「古い世代（高齢者）は若い世代に何を期待しているのか」
互いの世代が感じている活動の思いや悩み、これからやっていきたいことなどをざっくばらんに話してみよう。

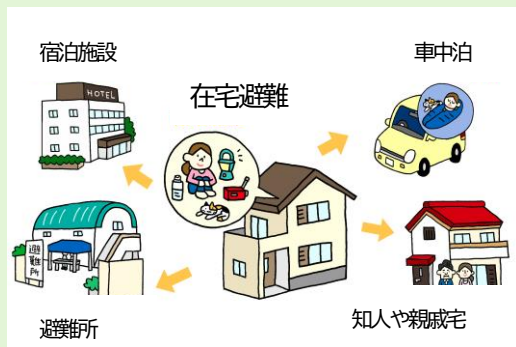
在宅避難はどのような生活になるのかをイメージして、課題や問題点、助け合いについて考えてみましょう。

1 A「防災・在宅避難後の助け合い」の討議概要

(グループの討議結果)

(1) グループメンバーで共有された要点

- ①在宅避難で最も大事なことは近隣同士が支えあい助け合うこと。普段からコミュニケーションを密にしてお互いの信頼関係を保つことが不可欠。
- ②自助努力による食料・水の備蓄は必須。
- ③「災害時助け合いグループ」の役割をより具体的に設定し、活動内容を「見える化」しておくこと。
- ④コロナ禍を前提にした避難所（避難生活場所）の立ち上げシミュレーションによれば、日野南小防災拠点（災害対策本部・避難所）の受け入れ能力は約50戸。同拠点が守備する地区の範囲は2000戸。従って、被害の規模にもよるが、在宅避難が不可避。
- ⑤これまでの日野南小防災拠点では、安否確認・避難所誘導に力が置かれてきたが、今後は、自治会とも連携して、在宅避難生活者の支援策にも視点を向けたい。



(2) 在宅避難で直面する問題

具体的事項	対応策
① 寝場所の確保・防寒・雨天	自助・共助による対応が不可欠。
② 余震による倒壊の恐れ	
③ 停電対策・通電時火災・スマホ充電器	
④ 食料の調達	被災生活の長期化に伴い、クローズアップされてくる問題点。
⑤ トイレの対策	
⑥ 情報不足・風評被害	日野南小防災拠点が、これまで目が行き届かなかった分野。
⑦ 防犯への備え	
⑧ 高齢者・要援護者への支援策	今後、自治会との連携による対応策の検討が課題。
⑨ 発病者支援	

「防災拠点活動」の詳細についてはHP「ひのみなみ」の本誌8号をご覧ください。(自治会→連合自治会で見られます。または以下から。)



2 B「若い世代と協働で活動する地域とするために」の討議概要

(グループの討議結果)

(1)「自治会や地域活動のイメージ」



- 役員以外は関わりが少なく、何をやっているのかわかりづらい
- 自治会もPTAも役員決めが大変。会議が多く、行事の手伝いが負担になるイメージがある。
- 大がかりなイベントが多く、地域活動が活発な反面、イベント等を知らない方もいる。継続するか否かも含めてどのように引き継いでいくかは検討が必要。
- 趣味の活動サークルや初期の移住当時の子育て世代(ママ友)など、グループのつながりは強い。
- 転入してきたが、活動に参加、貢献したくてもきっかけがつかめない。
- 中間世代(50~70歳代)が活動に興味をもって継承してくれたら良いと思う。

(2)「生活スタイルの変化と地域活動」

- 高齢者もLINEを使う人が増えていて、自治会で講習を行うと多くの方が集まる。
- 回覧より掲示板を見て写真を撮り、必要な情報を得る人が増えている。
- 生活スタイルや時間の感覚は世代によって違いがある。
- 子育て世代にも、在宅勤務により自宅にいる人が増えている。
- icoccaのハロウィンなどは広く情報発信され、地域外からの参加も多かった。



(3)「次世代も参加しやすい活動とは」

- 住み易い街にしたい。子どもから大人まで楽しめる場の大切さを感じる。
- ICTを活用して参加できるシステムがあると良い。
- イベントと一緒に経験した若い人達との「つながり」を継続させたい。
- 「秋まつり」の参加者の多さに驚いた。手伝って良かったので、この気持ちを広げたい。
- まちへの愛着は子どもの頃原風景(おまつりなど)から育まれる。
- 世代を超えた温かい見守りの輪をつくろう。
- 子ども会を親主体から子ども主体に、自分たちでやりたいことをやっていく形にしてはどうか。
- 「おやじの会」のような男性の入れるグループがもっとあると良いと思う。
- 高齢の人は経験を語ろう！若い世代は行動しよう！

◎まとめ 「まずは、やれることからやってみよう。失敗を気にしない！」



3 「最近の地域の主な行事結果」

No	行事名・開催日	主催	場所	参加者	実施結果 / 実施検討状況	
	わかばの会 (春) 2022/6/26 (日) わかばの会 (秋) 11/17 (日)	地区社協 わかばの会	日野南 地域ケア プラザ	40名 30名	実施済。 飲食はペットボトルの配布とお土産配布のみ。 みんなで懐かしい歌を歌い楽しいひとときを過ごした。	
2	シルバー喫茶 S地区N地区各々1 回/月	地区社協	icocca 個人宅	毎回 18名 程度	実施中。 個人宅およびicoccaでシルバー喫茶(ぼちぼちカフェ)を開き、脳トシなどの話で盛り上がっている。	
3	お楽しみ工房 8/14 (日)	地区社協	自治会館	74名	実施済。 どんぐりアート、クラフトアートの実践教室を実施。 飲食はなしで代わりにお菓子と鈴虫のお土産を提供した。	
4	富士見夏祭り 2022年は中止	5自治会	日野南 公園	-		
5	スポーツ フェスタ 10/16 (日) こども 秋まつり 同日 キャンドルナイト	連自治会 日野南小 おやじの会 地区社協	日野南小	351 名 430 名	実施済。 3つの行事を集中開催した。 午前中のスポーツフェスタ、 午後のこども秋まつり、夕方の キャンドルナイトと子どもたちに 一日中楽しんでもらった。	 
6	防災訓練 10/29 (土)	日野南小 防災拠点 運営委員会	日野南小	144 名	実施済。 防災拠点運営委員会だけでなく自治会班長も参加して訓練をおこなった。	
7	坂のまちの ハロウィン 10/31 (月)	icocca (いこっか)	環状3号 線沿いの 協力店	100 人の子 どもと 保護者	実施済。 港南区と栄区の架け橋環3沿いを皆でスタンプラリーをしながら楽しくまちを歩いて、お菓子をもらった。	
8	アート展 11/19 (土)・ 20 (日)	アート展 実行委	コミハ	351 名	実施済。 出展数も150点で3年ぶりの開催であったが、多くの方の来場があった。	
9	地域合同お楽しみ会 1/14 (土) (雨天のため 殆ど体育館で実施)	地域合同 お楽しみ会 実行委員会	日野南小	530 名	実施済。 12:30-14:30に時間を限って開催。日野南小のソーラン節、日野南中のプラスバンド、小学生によるイベント、ドローンショー等。	

構成メンバー：日野南連自治会、野村港南台自治会、港南つつじヶ丘自治会、グランヒルズ港南台自治会、コープ野村港南台自治会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、日野南小防災拠点運営委員会、保健活動推進委員会、消費生活推進員の会、青少年指導員協議会、スポーツ推進委員連絡協議会、交通安全母の会、環境事業推進委員連絡協議会、日野南小学校、小学校PTA、日野南中学校、中学校PTA、野村港南台喜楽会、つつじヶ丘和楽会、icocca